

川村雅則ゼミⅠ・Ⅱ

KAWAMURA Masanori Seminar I・II

参加学生数6人・7人(院生1人)



川村 雅則

経済学科
准教授

学生アルバイトにみる労働問題

研修地：札幌市

研修目的

民間だけでなく、「官」の分野でもワーキングプアをめぐる問題が深刻である。今年のゼミでは、このテーマで調査研究を行った。場所は札幌市である。

官製ワーキングプアは、市役所等に直接雇われている非正規公務員と、民営化・民間委託などアウトソーシングされた先での問題とに大別されるが、後者に焦点をあてた。最終的には、民間委託・清掃事業分野と指定管理者分野を中心にまとめた。

秋頃、自分達も別の研究テーマで独自に調査を行ってみたいというゼミⅠからの要望に応じ、急遽、学生アルバイトを対象にした調査を開始した。

アルバイトでの経験は人格形成や進路を考える上でよい影響を与えるものではある。だが一方で、「アルバイト>学業」という状態になったり、様々な労働法違反・トラブルに遭遇しているケースも多い。学生達はそういう実態を調べ、労働法制の勉強や労働組合からの聞き取りをふまえて、問題解決の方法を考えた。

研修地・日程

春から夏にかけて
労働組合（自治労北海道、札幌地域労組）など関係者を訪問し、聞き取りを行いながら、調査の計画をたてる

7月
本格的な調査活動を開始

(1) 委託清掃事業調査：清掃会社や市役所環境局を訪問し聞き取りを実施。札幌地域労組・友の会の協力で清掃労働者からの聞き取りとアンケート調査を実施。

(2) 指定管理者調査：札幌市における指定管理者施設418件のうち10件を訪問し、その後、全施設を対象にアンケート調査を実施。

11月
札幌地域労組が主催した学習会での講師をつとめたほか、委託清掃事業と指定管理者分野にみる雇用・労働問題を題材にして、「なくそう！官製ワーキングプア」集会を開催。

12月
ゼミⅡは、本学で開催されたインターゼミナール大会で調査結果を報告（後日に「報告書」も作成）。ゼミⅠも、学生アルバイト調査の結果を「白書」にまとめ発表。

総括

(1) 公共サービスの担い手が公務員とは限らない。例えば私たちの身近なごみ収集業務に従事しているひとしかり、各種の公共施設の管理運営にたずさわっているひとしかり。彼らは、市から仕事を請け負う民間事業者で雇用された労働者だ。しかも、公務員どころか、非正規雇用が多く、その賃金水準も十分とはいえない。だが、彼らを雇う事業者もまた受託者の立場で苦しい立場にある。市から支払われる委託費が必ずしも十分な水準ではないためだ。札幌市内で家庭ごみの回収事業を行う清掃事業者からの聞き取りでそのことを知らされる。とはいえ、厳しいからといって現状を放置しておくわけにはいかないということも、労働者調査で学生達は痛感する。例えば、正規では約3割が年収300万円、非正規ではほぼ全員がそれに該当する（年収200万円未満に限っても6割に達する）状況だからだ（アンケートより）。

指定管理者調査でも、委託費水準の問題とあわせて、1回の事業契約期間が3、4年と短い事情から、非正規を中心にした雇用形態にならざるを得ない厳しい現状を知った。全施設の雇用総量のうち、正規29.0%、フルタイム非正規27.0%、パートタイム非正規42.9%と正規はわずか3割だった（アンケートより）。ここでも、労使間に加えて、事業発注者である自治体と受託者との間の契約関係や内容をどう規制していくかという発想を迫られ、ゼミ生達は、現在、札幌市で議論の真っ最中である公契

学生研修記

アルバイトも労働者デアル



上野拓哉

経済学科2年
北海高校出身

これを読んでいるそのあなた！アルバイトはしていますか？「シフトが予定していたものより増やされてる」とか「レジ過不足が出たとき自分で払った」などの経験はありませんか。私たちは学生バイトをめぐるそんな問題に興味・関心を持ち、本学の学生からの聞き取りを行いました。今回の調査で顕著だったのは、自分の働く条件への関心の薄さです。自分のシフトが週何回入るのかを知らない、昇給はするのか、昇給後の時給はいくらなのか、など自分の待遇について把握していない。つまり自分の労働契約内容を知らない学生が多いのです。上司が良い人だから…とか、しょせんアルバイトの言うことは職場では通らないのでは…などの声も聞かれました。でも、学生アルバイトも職場や社会をつくる労働者です。ですから、そういう自分たちの役割について、学生のうちから関心を深めることが大切です。私たちの作成した白書がその役に立てば嬉しいです。

大切なのは声をあげること

学生アルバイトは、さまざまな職場で欠かせない存在となっている。その労働実態を明らかにするため、在学生25名から聞き取り調査を行った。賃金不払い、勤務ローテーションの変更、本来不要な弁償などトラブルに遭遇しているケースが少なくなかった。背景には、働くルールに関する無知や関心の無さがあつた。訪問した労働組合でも、そういった「無知」は学生バイトに限らず、労働者全体に現在みられることだと聞いた。そして、声を上げずにそれらの問題を容認してしまうことで、それが社会全体の慣習となり、社会全体のレベルを下げてしまうと聞いたのが印象的だった。こうした悪循環をこれ以上生み出さないために、アルバイトも労働者であるという自覚を持ち、学生のうちから、働くルールの知識を身につけ、より良い働き方を目指していく必要性を感じた。そういう知識を得る機会を設けていくことが大学や社会全体にも求められている。



澤田まりや

経済学科4年
自由が丘産能短期大学出身



1



2



3



札幌市における官製ワーキングプア問題

研修地：札幌市

約条例などの勉強を深めるに至った。その調査研究成果は「報告書」にまとめたので参照していただきたい。

(2) 大学生にとって、アルバイトは欠かすことができない重要な生活の一部だ。適度なアルバイト経験は、ほどよいスパイスのように、大学生活をより充実したものとし、また自分自身を成長させてくれるものである。だが問題もいろいろ多い。そこで大学生のアルバイトをめぐる問題という調査研究テーマを急遽設定し、聞き取り調査を開始した。すると、勝手にシフト変更される、試験前なのに休ませてもらえない、時間外割増や深夜割増が支払われていない、タイムカードが勝手におさされるなどの訴えが聞かれた。労働法に違反していると当該学生自身が理解していないケースもあった。

こうした状況が法的にも問題であることを知ったものの、とはいえ、誰がどうこの問題を改善していくかというその主体性に関する点についてはすっきりした回答が得られなかった。ゼミⅡとの共同調査で労働組合という存在をすでに知っていたゼミ生達は、そこで、札幌地域労組を訪問し、組合の経験や実践等を聞くなかで、考察を深めた。同労組主催の「労働者の権利講座」にも参加した。不十分な内容ではあるが、以上の学びの成果を「白書」としてとりまとめた。上記の「報告書」とあわせて参照していただきたい。

学 生 研 修 記

しわ寄せを受ける労働者—自治体が生み出す労働問題



佐竹孝紀
経済学科3年
紋別北高校出身

民間委託は、地方自治体のコスト削減の手段、住民サービスの効率化を目的に導入されているが、人件費の削減によって労働者がしわ寄せを受け「官製ワーキングプア」を生み出す原因にもなっている。自治体業務の民間委託は様々な分野で行われている。それまで「公共」として扱われていたものが、競争原理の働く市場へ開放され、結果として労働者の給与の削減、雇用不安、非正規労働者の増加といった問題が発生している。それらの問題解決は困難だ。なぜなら、労使間というより、自治体(業務発注者)・事業者(受託者)・労働者という三者の間で問題が生じているからだ。問題を生み出している大もとは自治体にある。地方財政の厳しさを理由にしたこうした問題は無視され続けてよいのか。今回の調査で、本来住民の暮らしを守るはずの自治体がこうした問題を生み出していることに強い衝撃を受けた。自治体の考え方や制度そのものに今一度向き合っていく必要があると感じた。

私達の暮らしを支える公共サービス労働者の厳しい現状



藤田響一
地域経済学科3年
札幌啓成高校出身

私は主にごみ収集に関する調査を担当した。調査活動を通してまず驚いたのは、労働者の賃金水準の低さだ。同じ正規雇用でも、直営で働く労働者と民間委託で働く労働者とは、約2倍の年収差があった。民間委託でいかに人件費削減が行われているのかがわかった。しかも、民間委託の大半の労働者は非正規雇用で、年収200万円台という文字通りワーキングプアという状態を余儀なくされている。「他にアルバイトをしていないと生活していけない」という声が聞かれた。一日だけだが作業も体験した。肉体的にも精神的にもきつく、さらに危険の多い仕事で、とても割に合う仕事とは思えなかった。そんななかで、労働者一人一人が、労働組合を通して、この現状を変えていこうという動きを知った。ごみ収集は私たちの生活を支える重要な役割を担っている。私たちがこの事実を知ること、ごみ収集労働者の社会的評価を上げていくことができるし、その必要があると強く感じた。

● 報告書、白書の参照先：

<http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/>

写真キャプション

①～⑥ 清掃労働者調査。⑦⑧ 学習会。⑨ 地域労組訪問。

